＜福島県知事賞＞

税の大切さ

南会津町立南会津中学校　１年　本名　未波

「今は、子どもの医療費がかからなくて良い時代になったね。」

私を病院に連れていってくれた帰り、祖母がこうつぶやきました。その意味が分からなく、祖母にたずねてみました。すると、祖母の時代には子どもの医療費があったことを教えてくれました。確かに、病院のお会計で処方箋を受け取る時、会計の人が「お会計はありません。」と言っていました。そこで、ある疑問が浮かびました。たとえ子どもであってもけがや病気を治療したり、医療器具を使用したりするのはお金のかかることなのになぜ費用がかからないのだろう。気になった私は調べてみることにしました。すると、これには税金が使われていることが分かりました。税金は信号機や身の回りの施設などに使われていることは、社会科の授業で学んだことはありますが、医療費にまで使われているとは思いませんでした。

別の日にまた祖母に税金のことを聞きに行きました。すると、今は国から無料で配布されている教科書も、祖母の時代はお金がかかっていたそうです。私は、医療費のことや教科書のことを当たり前のように思っていましたが、それは沢山の人が協力して納めてくれた税金が使われていることを知り、これから働く人達に感謝しながら生活していきたいと思いました。

私は、よくお店でおかしを買っています。おかしの値札には、税込や税抜という文字が書いてあります。それは消費税として、代金に上乗せされて支払い、国のお金として使われていること

が分かりました。みんなから少しずつ集めたお金も、人数が集まれば大きな金額になります。こうして集めたお金を、みんなが使うものを作ったり、必要とする物を維持したりすることが税金の目的ということのようです。

私は、祖母の話を聞いた時に、祖母が使う杖を母と選びに行った時のことを思い出しました。足が弱い祖母のために、しっかりとした杖を買おうとしましたが、高額なものが多く、選ぶのに時間がかかってしまいました。すると、お店の人が介護用の補助があると割引きが出来るということを教えてくれました。高齢者の医療費の割引きや、負担率の軽減も国の税金で助けられているそうです。子どもも高齢者も税金のおかげで安心して暮らしやすい生活になっていて、嬉しくなりました。

学校で用意されている机やいす、備品も国の税金から支給されていることも学び、改めて物を大切にしていきたいと思いました。

税金は、人の暮らしを豊かにしてくれるものです。これからの未来へ向けて、お金を大切にしていきたいです。